

に堪へやらぬ風情で『マアお歸んなさいまし、わたし今朝は未だ十五分位間があるの、お話をしませうよ』夫の手を取らうことすれば亭主はフンフンと悦んで應すると思ひの外『話たこゝ竪椿奴これから未だ仕事があるんだこんなに草臥れてゐるのに話ごろかい、話がしねりや洗濯ごともするかいや』眞實にコンナ事もないだらうが我輩等の夫婦にさつて夫婦和合、一家開墾の時間の乏しいのは明かな事實である。斯くして我輩等仲間の家庭生活は元來の潤ひを失ふて廣野の如く沙漠の如き荒涼たるものとなり了るのである。吁、無産階級の婦人は何處に家庭らしき家庭を持つのだらうか。夫婦が出て工場に働くてもその児供達が家に寝つてゐるこそれ

ば家族團結は矢張り存在するのであらう而もその無產者が家族團結のくさびとなる子供はどんな状態に置かれてゐるのか、彼等の营养は不足し住居は痛苦しい上に不潔である。彼等は百姓の子供のやうに廣い草原や泉のはざりの縦陰にて遊ぶ事を知らない。一日二十四時間、此のゴミ溜のやうな町の中で塵にまみれ腐つた瓦斯を吸ひ、僅な空地に集つて遊ぶのである。之等の子供は家に在つては父母と共に在るの時間極めて少く、教育の任に當るべき監督者を欠くが故に自然と不秩序なそして放縱な生活に慣れ成人した後に於ても極めて道義心の不健全な人間となるのである。その罪は抑も誰に婦すべきだらうか。

斯様に無產者の夫婦が一日中家を外にしてゐるためその小供が宛る